

「日本の気候変動2025」のポイント①



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

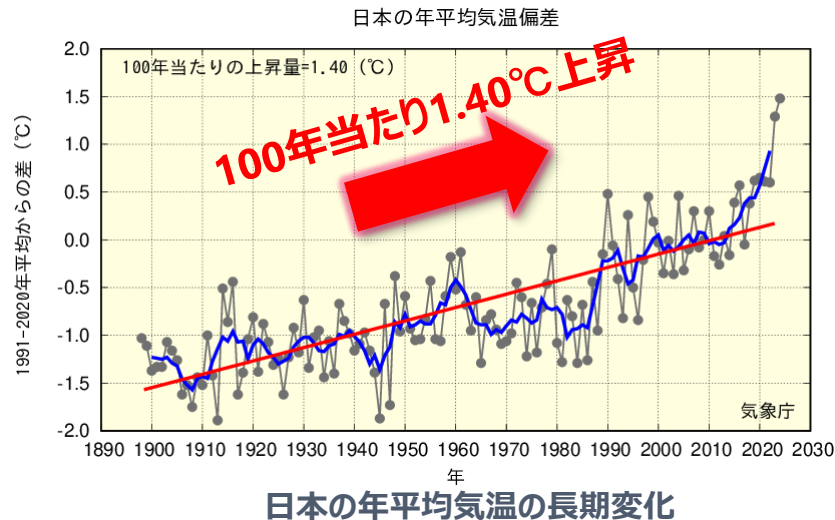


気象庁
Japan Meteorological Agency

観測結果

年平均気温（更新）

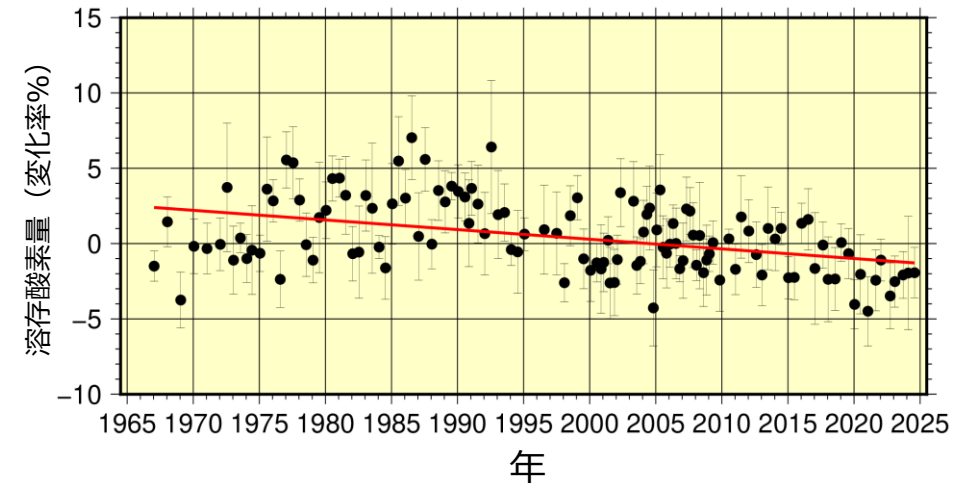
1898～2024年の間に**100年当たり1.40℃**
の割合で上昇した。
「2020」では100年当たり1.24℃



観測結果

海洋の貧酸素化（新規）

地球温暖化の進行具合を示す
溶存酸素量が長期的に減少（貧酸素化）
していることが明らかに。



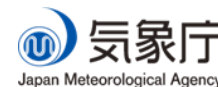
日本南方における海洋中（深度0～1,000m）の溶存酸素量の変化率

「日本の気候変動2025」のポイント②



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



気象庁
Japan Meteorological Agency

将来予測

極端な高温

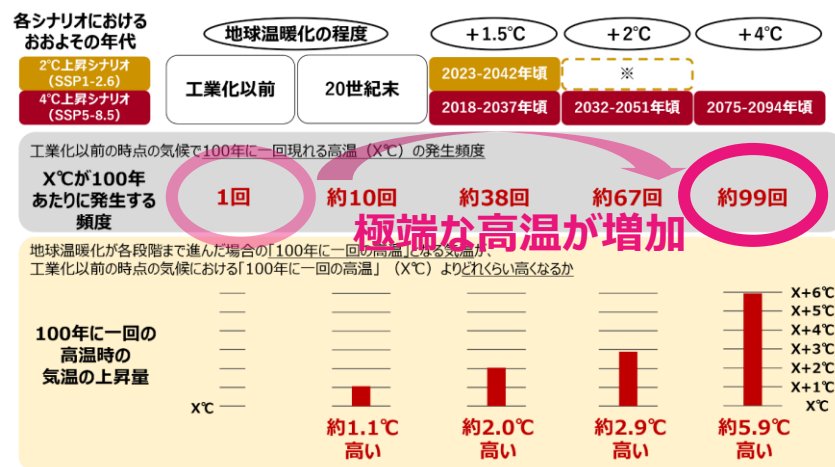
工業化以前の気候で100年に一回発生した高温は、**4℃上昇時の気候では100年に約99回**[#]発生すると予測。

将来予測

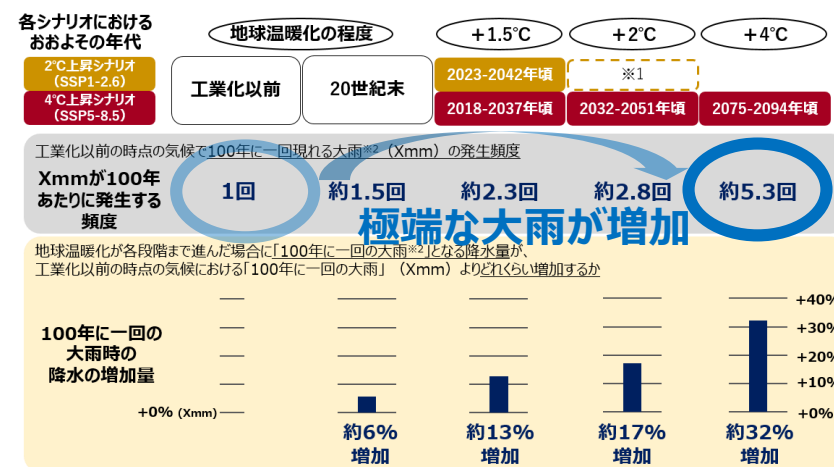
極端な大雨

工業化以前の気候で100年に一回発生した大雨は、**4℃上昇時の気候では100年に5.3回**[#]発生すると予測。

(# 全国平均値)



100年に一回の極端な高温の発生頻度と強度の変化



100年に一回の極端な大雨の発生頻度と強度の変化

「日本の気候変動2025」について

日本の気候変動について、これまでの観測結果と、将来予測（パリ協定の2℃目標が達成された場合（2℃上昇シナリオ）及び追加的な緩和策を取らなかった場合（4℃上昇シナリオ））をとりまとめ。国、地方公共団体、事業者、国民が気候変動対策を進める上で必要となる科学的知見（エビデンス）を提供することを目的に、令和7年3月に公表。

「日本の気候変動2025」の構成

【概要版】

- ✓気候変動に関する入門資料
- ✓スライド形式



【本編】

- ✓日本の気候変動に関する自然科学的知見を概観した基本資料
- ✓観測結果と将来予測に分けて、平易な表現で簡潔にまとめた

【詳細編】

- ✓各要素の詳細な情報を、参考文献も示しつつまとめた専門資料



【都道府県別リーフレット】

- ✓都道府県等における基本情報をとりまとめたリーフレット



- ✓HTML形式の報告書、図表の画像ファイル・数値データをダウンロードできる素材集なども用意。